

研究プロジェクト名

20世紀日本の生活様式と
社会環境に関する学際的研究An Interdisciplinary Research on the Style of Living
and Social Environments in the 20th Century Japan

大学院経済学研究科・教授

中西 聡
Satoru Nakanishi

なかにし さとる プロフィール

1988年 東京大学経済学部 卒業
1993年 東京大学大学院経済学研究科 博士課程単位取得 退学
1995年 博士(経済学)

研究経歴

1993年 東京大学社会科学研究所 助手
1995年 北海道大学経済学部 助教授
1999年 名古屋大学経済学部 助教授
2000年 名古屋大学大学院経済学研究科 助教授
2004年～ 名古屋大学大学院経済学研究科 教授

研究分野

近代日本社会経済史
近代日本経営史

受賞歴、レクチャーシップなど

2002年 平成14年度財団法人東日本鉄道
文化財団交通調査・研究助成優秀賞
2003年 2003年度経営史学会(日本)学会賞

れます。そこで、その相互関連に息づく先人の知恵と工夫を多面的に研究し、未来に活かせる「知の体系化・総合化」を図ることを目的として、今回のプロジェクトを立ち上げました。

具体的には以下の3つの課題に取り組んで最終的な目的を達成したいと考えています。

①プロジェクトメンバーがこれまで個々に進めてきた近現代日本の生活様式に関する諸研究(消費生活・農村社会・都市社会・教育・住居・記念碑文化・医療など)を総合して、日本の人々の生活様式の特徴を体系的に考察する。

②現在、本学経済学研究科図書室に所蔵されている近現代日本の生活様式と社会環境に関する資料群(20世紀前半に日本各地の主に農村で作成された「郡是・町村是」資料集成(マイクロフィルム版)、大都市の社会局等が発行した1920・30年代の社会調査報告書、20世紀前半の家計調査集成など)を共同で分析し、都市と農村の生活様式の比較研究を行うとともに、名古屋地域を含む日本各地の生活様式と社会環境の変遷に関する文献調査とフィールド・ワークを並行して進め、互いの分析成果を連関させつつ解明する。

③以上の作業を通して、歴史学を軸として経済学・地理学・建築学・都市工学・社会学・教育学・政治学・生命科学などに関連する新しい融合型学問領域を構築し、学内外にその成果を発信する。

本学でも、文理融合型のプロジェクト研究はすでにいくつか進められていますが、我々のプロジェクトは歴史学に軸を置く点に特徴があります。歴史学は、いろいろな学問分野に関わることが可能で、その特徴を活かして、人文・社会科学と自然科学の接点と成り得る新たな学問拠点を本学に創り、隣接学問分野間の学問交流を進めるとともに、既存の学問分野の活性化も図りたいと願っております。

そのような目標を掲げた我々にとって、多様な学問分野の方々が集い、部局単位の枠組みを離れて大学全体で画期的研究成果を目指す高等研究院の存在とご支援は大変有り難く、高等研究院の他のプロジェクトとも互いに刺激を与え合って、最終目標に向かって力を注ぎたいと思います。

私は、18・19世紀日本の経済を、市場構造・商家経営・消費生活などの多様な側面から研究し、それらの研究を通して「人間の歴史」を解明することを目標としております。その場合、人間は社会的存在であるとの位置付けから、交換関係(贈与・貢納・市場取引・分配等)の視点を重視し、新たな経済人類史学の構築を目指しています。

新しい世紀に入った日本では、自然破壊・居住

環境や教育環境の悪化・高齢化社会・医療保険・エネルギーなど前世紀から積み残された課題が、ここ10年ほどのうちに顕在化すると思われますが、そのような危機の時代こそ、先人の知恵と工夫に学ぶ必要があると思います。その知恵と工夫は、先人の生活様式のなかに見出すことができ、そうした生活様式とそれを取り巻く社会環境の相互関連のなかで、それらは発揮されてきたと考えら

